

ひとコマ

家族の食卓を、支えたい

ゆにしあ 池田百合子さん 宗片恵理さん

「ゆにしあ」では、介護者家族やヘルパーなどの専門職へ、シニアの食に関する講座や料理教室の企画提案、講師派遣などを行っている。この日の実習メニューの一つは「肉団子鍋」。ひき肉にごはんを混ぜた団子や繊維を断ち切るようになした野菜などの具は、とても柔らかい。手間もかからず、高齢者も食べやすい工夫をした、子どもからお年寄りまで楽しめる料理。

ミキサー食、あるいは刻み食。食べる機能が衰えた高齢者の「介護食」というと、そんなイメージをもっていた。しかし、2月の『食の親孝行講座』の講師を務めた池田さんの「ひじきや角煮をペースト状にしたもの、美味しいでしょうか」という言葉に、「美味しいなさそう」と思う。

介護について「家はまだ」と言う人も多いが、65歳以上の5人に1人が何らかの飲み込みによる人の顔があつて、食事があるんだな、と」。刻んで出すだけではダメなんだ、気づいた。活動を続ける中で、池田さんは心底思う。「食べる人の顔を感じる」と言っている今、シニアの食はとても身近だ。家族の食事が、最後まで穏やかで楽しいものであつてほしい……。その

新聞屋さんのミニコミ紙
マイタウンあさひ
2015年3月号

vol.172

E-mail:mytown@asa-yamagata.com

編集:マイタウンあさひ編集室 ■毎月30日折込 ■21,700部発行

〒990-0054 山形市六日町7-10 朝日新聞山形ビル3F 山形県朝日会内 TEL/FAX 023-673-0789



写真左上下:親孝行講座の実習風景。写真右:向かって左が池田さん、右が宗片さん。

多くの介護者家族が、「食べてくれない」「親戚に、「ちゃんと食べさせているの?」と言われた」などと悩んでいる声を聞いた。だからこそ、「せっかく別に用意した食事を、「どうして食べないの!」とイララしながら時間をかけて食べさせ、自分は缶詰:じやなくて、みんなが美味しく食べられるものを、楽に作つて優しく接することができるようお手伝いできたら」と宗片さん。

「細かくしたり、ミキサーにかけるなどした特別な食事では、家族みんなで食べられない。誰が食べても美味しい一品があることで、食の幸せを提供したい」と池田さん。